

【優秀賞】

「大根の芽」を読んで

水上村立岩野小学校 3年 西 柊香

わたしは、道とくの時間が大すきです。お話を読んで、なぜかなと考えたり、どんな気持ちだったかを想ぞうしたり、自分だったらどうするかを友だちと交流したりできるからです。

この前の道とくでは、「くまもとの心」の本の中にある「大根の芽」というお話を読んで、みんなで考えました。中原じゅんぞうさんのお話でした。11才でじゅくに入学したじゅんぞうさんが、きびしいじゅくのくらしにたえながら畑仕事も一心にがんばっていました。もし、わたしだったら、たえられなくて、と中でやめてしまうかもしれないと思いました。なぜかという、そう合の学習で畑をくわでたがやして、うね作りをしたときに、とてもきつかったからです。1、2時間しただけでへとへとでした。それを毎日やると考えただけでもたいへんだと思いました。

みんなで考えた問題は、「なぜ、じゅんぞうは畑仕事を一心にがんばれたのだろう。」です。わたしは、3つ答えを考えました。1つ目は、食べる物を自分たちで作らないといけないので、やめたら食べられなくなるからです。2つ目は、と中でやめてしまったら、今までがんばってきたことがむだになるからです。3つ目は、じゅんぞうさんのお父さんが「つらさを乗り越えてがんばれば、楽しくなる。」と教えてくれたからです。ほかのみんなも同じような考えでした。特に、心にのこったのは、じゅんぞうさんのお父さんの言葉です。畑仕事をと中でやめていたら、大根の芽が出たよろこびも、みんなに自分が作った野菜を食べてもらうよろこびも味わえなかったと思います。きつくても、つらくてもがんばりつづけたから、楽しくなったと分かりました。

この学習をして、わたしは、「しんぼう強くがんばること」や「と中であきらめないこと」がやっぱり大切だと強く思いました。

わたしは、走るのがにが手です。じきゅう走大会にむけてのれん習がいやだなとかきついなど思うことがありました。でも、これまでもあきらめずにがんばっていたので、これからも「がんばれば楽しくなる」と思って、もっとがんばろうと思いました。

今は、岩野小学校のみんなで、うん動会にむけて、毎日のれん習をがんばっています。暑いし、きついし、たいへんだけど、うん動会を大せいこうさせるために、と中であきらめずに、さい後までやりぬきたいです。そして、みんなでよろこびを味わいたいです。